



2025年 2月 3日
第132号

JR 東労組 
Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 梶田 優一
編集 情宣 担当
ホームページ

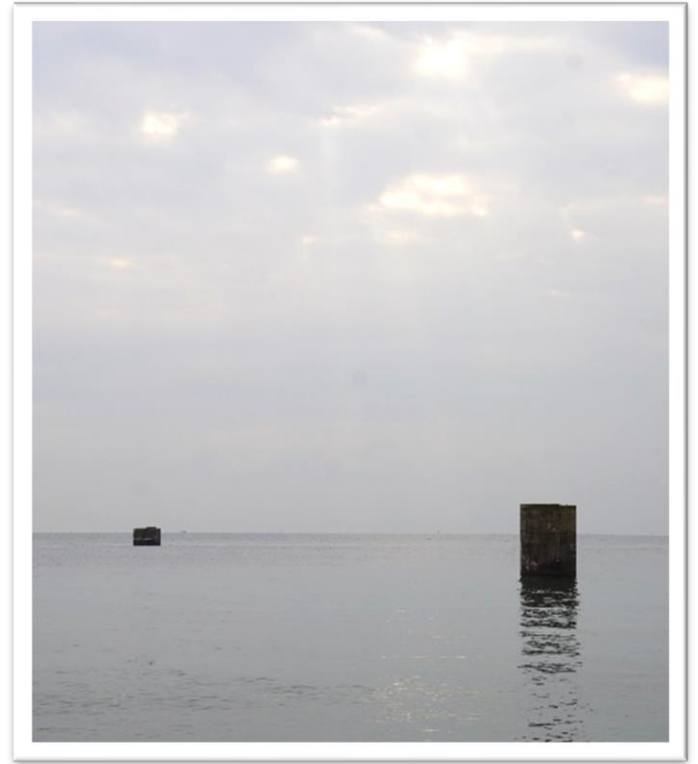


<http://www.jreu-yokohama1.jp/>

隠されていた十五年戦争中に起きた大事故 長生炭鉱水没事故から 83 年

横浜地本情報第 127 号「イーハトーブ」において、背景に使用した写真は、海底炭鉱で栄えた山口県宇部市、宇部炭鉱のひとつ、長生炭鉱で使われていた排気・排水筒、通称「ピーヤ」を撮影した写真です。この炭鉱は戦時下の時勢によって、当時の法律でも違法である、海底からごく浅い場所を掘削する操業を行っていた炭鉱で、危険なため作業員の大多数が朝鮮半島から連行されてきた人々でした。

83 年前の 1942 年 2 月 3 日朝、沖合 1 km の坑道において天井の崩落が発生、流入した海水は、瞬く間に坑内で作業をしていた 183 名を呑み込んで長生炭鉱は水没しました。折しも太平洋戦争開戦直後であり、事故の詳細は出されず、現場にいた遺族は憲兵によって排除され、坑口は埋められ設備は撤去、会社も解散し、遺族はなんの補償もなく社宅から追い出され、路頭に迷うことになりました。その後は沖に残った 2 本のピーヤのみが、この海底に炭鉱が存在していたことを伝えていました。



1976 年に地元の教員が執筆した論文により、この事故が世に「発見」されました。戦後隠され続けた事故について調査が始まり、1991 年に「長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会」が結成され、やがて犠牲者の氏名が判明し、183 名の犠牲者のうち、136 名が朝鮮半島出身者ということが判明しました。同会によって韓国より遺族を招いての追悼式典や、長生炭鉱追悼ひろばの開設など、地元の人々が中心となって運動を行っています。昨年 9 月 25 日、ついに埋められた坑口が発見され、82 年ぶりに坑口が開けられました。遺族へ遺骨を返還することを目標に、先日も潜水調査が行われるなど、現地では今も活動が続けられています。



長生炭鉱追悼ひろば

宇部線床波駅から南東の海沿いに開設されています。慰霊碑が設置されているほか、周囲には長生炭鉱についての資料がパネル展示されています。



水没事故犠牲者慰霊碑

海上に顔を出したまま残っている 2 本のピーヤを模した慰霊碑に犠牲者のお名前が刻まれています。右側が日本人、左側が朝鮮半島出身者のお名前です。

ピーヤと坑口発掘現場



山口宇部空港の東側、着陸前に陸側の外を見ると、海面から突き出たピーヤと、発見された坑口の場所が確認できました。犠牲者は今も海の下に眠っています。

戦時体制の労働現場では生産が全てにおいて優先され、安全は蔑ろに！